

平成27年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ運動学特講			担当教員	川口鉄二		
領域水準コード	A2, D2	単位数	2	履修方法	選択必修	授業の方法	講義
授業の概要							
体育教師やスポーツ指導者に必須の専門領域とは。人間の運動の見方の両極である、モルフォロギー的な認識と自然科学的な認識が、具体的にどのような実践上の問題を引き起こしてしまうのか、いくつかの例証をもとに解説する(川口)。能動的に身体知の形成を育むための指導がどのようにして可能なのか、ドイツのマイネル理論を引き継いだ最新の現象学的・人間学的理論を、「促発コーチング論原論」として解説していく(金子)。							
授業の一般目標							
スポーツ運動学の基本認識が理解でき、コーチング領域の具体的問題圏に対して動感発生論的な考察ができるようになる。							
授業の到達目標							
<input type="checkbox"/> 認知的領域	スポーツ運動学領域の諸概念を理解できる。						
<input type="checkbox"/> 情意的領域	学習者の動く感覚を読み取ることができる。						
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域	発生を促す具体的な促発処方が理解できる。						
授業計画(全体)							
今日の日本の運動学が成立するまでの経緯と、実践理論としての成果を学校体育及び競技スポーツの現場における例から解説する(6月中旬～予定)。その後、最新のスポーツ運動学理論を、コロキウム形式により具体的な例証を取り上げながら解説していく(集中:9月5-7日予定)。							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業概要及び評価方法等の説明。運動経験、指導経験及び問題意識の確認	9	[テーマ] 動感対話の交信能力を問う [内容] 動感対話の現象に注目し、身体移入交信法則の存在を確認する。動感地平志向化現象の不可欠性に問いかける。最後に観察・交信領野の分析手順を確認する。				
2	[テーマ] スポーツ指導現場で何が起きているのか [内容] マネジメント教師、自得頼りのコーチ、サポート指導者などの問題性について解説。	10	[テーマ] 処方化現象とは何か [内容] 促発処方化現象の概念を検討し、その共動感化原理を確認する。処方化領野の全体系を図式によって展望する。				
3	[テーマ] 実践問題を解決するための理論とは [内容] 運動理論の歴史、スポーツ科学の発展と実践問題。教える一覚える関係系から見るために必要な分析能力について解説する。	11	[テーマ] 動感模倣能力とは何か [内容] 促発呈示化領野の体系を展望し、その中核をなす模倣呈示化法則の存在を例証分析によって確認する。動感模倣能力の実習の不可欠性を問い直す。				
4	[テーマ] 運動分析法の歴史と発展 [内容] 運動の分析法の歴史的概観とその背景にある運動認識を解説する。コロキウム形式授業の目的と事前準備について説明する。	12	[テーマ] 促発起点化現象とは何か [内容] ① 促発呈示化の現象領野 促発起点化現象の存在論を問う。即座構成化法則と待機構成化法則の存在を確認し、それぞれの例証分析によってこの法則性の不可欠さとその能力養成の方法論に問いかける。				
5	[テーマ] スポーツ運動学とは何か [内容] スポーツ運動学の概念規定と運動学の基本概念の混乱を考察する。さらに、スポーツ学習と運動学習の違いを明らかにし、運動学のねらいを確認する。	13	[テーマ] スポーツ運動学の独自性 [内容] 身体知発生論としてのスポーツ運動学の独自の役割を確認する。反復化現象の本原的充実性と脱目的性を基底に据えた純粋身体知の今日的意義を問い直す。				
6	[テーマ] 体育指導者の専門能力を問い直す [内容] 身体教育の意味構造を明らかにし、他の指導者に代替できない固有な専門能力に注目する。身体知発生論の基盤領野と形態発生現象と伝承発生現象の全体系を身体知分析体系図によって展望する。	14	[テーマ] スポーツ指導者に課せられた役割 [内容] 体育・スポーツ指導者の専門能力の独自性に問いかけ、その能力養成の方法論とその検定論の課題を展望する。				
7	[テーマ] 処方素材化現象を問う [内容] 運動学習の前提となる動感素材の構成化に注目し、身体移入原理の意味構造を明らかにする。そのための身体移入能力の実習を問い直す	15	[テーマ] [内容] 運動発生論の基本的な考え方及び、教える一覚える関係系から見るために必要な観察能力について解説する。				
8	[テーマ] 移入観察力とは何か [内容] 観察能力と交信能力の相補的統一法則の前提条件を確認してから、観察の意味構造とその観察能力の例証分析を取り上げる	16	[試験または課題] 試験 [方法] 筆記試験				
授業外学習の指示等							
教科書、参考書などを事前に読んでおくことが望ましい。また、毎時間前には前回の講義における疑問点等をディスカッションの材料とするので、まとめておくこと。							
成績評価方法(方針)							
授業の出欠及び内容の理解を確認するためのレポートによる。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	体育教師や運動指導者が発生指導を行う際に不可欠となる基礎理論ですので、自らの運動学習経験、指導経験に際しての具体的な内容、問題点などを事前によく思い出しておいてください。	
成績評価方法							
定期試験(期末試験)	◎				70		
小テスト・授業内レポート	○				10		
授業外のレポート	○				10		
ポートフォリオ				○	10		
出席			○		減点対象		
その他	○				減点・欠格条件		
関連科目	スポーツ運動分析法演習(川口)						
教科書	「身体知の形成(上・下)」 「スポーツ運動学」 明和出版			参考書	1. 運動学講義(大修館) 2. 技の伝承(明和出版)		
連絡先	A403川口研究室(0224-55-4074)						